

タイトル

「チエリードール」

唐下浩

あらすじ

葉山梨花（17）は、女子校に通う演劇部員。おかつぱ頭がトレードマークで、親友の仲峰雫（18）から「こけしみたい」と言われていた。そんな梨花だが、ある日、校舎の窓から落ちて死んだ。

梨花の死から一ヶ月後。梨花と同じクラスの女生徒全員が、梨花と同じおかつぱ頭で登校。ホームルームの出席確認では、全員が自分のことを「葉山梨花」と名乗る。そして彼女たちは突然、机から台本を取り出して演劇を始めたのだ。

劇の内容は、こけしが人間の男に恋をする物語だが、女子高生の梨花と担任教師の西島春人（32）の恋愛模様が生々しく描かれていた。劇が進むにつれ、梨花と西島に起きた出来事が、一つ一つ、あらわになり。やがてパニックを起こした西島は、幻覚を見はじめ、しまいには教室の窓から地面へ落ちてしまう。

登場人物表

仲峰雫（18） 高校三年生

葉山梨花（17） 高校三年生

西島春人（32） 高校教師

葉山桃子（45） 梨花の母

女生徒 A ～ R

○床屋『バーバー葉山』・外観(夕)

緑豊かな路地裏の木に、蟬がとまっている。

赤・白・青のラインがくるくる回るサインポール。

並んで、『バーバー葉山』の看板。

○同・店内(夕)

壁に『2010年7月』のカレンダー。

葉山桃子(45)が、客の髪をドライヤーで乾かしている。

ドアが開き、風鈴が鳴る。

桃子「いらっしやいませ……あつ、雫ちゃん」

女子高生の制服、スクールバッグを抱えた、仲峰雫(18)。

長い髪を風になびかせ、うつむいてる。

雫、肩を震わせて、

雫「おばさん……」

桃子「髪、のびたね」

と、にっこり微笑む。

× × ×

鏡の前の椅子に座っている雫。

桃子、雫の首にタオルを巻き、ケープをかける。

桃子「今日は、演劇部は休み？」

小さく頷く雫。

桃子「そう……さーて、どれくらい切ろうか？」

雫「……」

床に置かれたバッグから、木彫りのこけしを取り出す。

雫「これくらい」

桃子「!？」

こけしを見る桃子。

おかつぱ頭の少女が描かれている。

桃子「いいの？」

雫、無言でうなづく。

桃子「かしこまりました」

雫の髪の毛を切りはじめる。

髪を切る音だけが、店内に響きわたる。

店内の隅に置かれた写真だて。

写真には、雫と同じ制服を着たおかつぱ頭の葉山梨花。

入学式に校門の前で撮ったと思われる、親子写真である。

桃子「（つぶやき）梨花……」

桃子の目から涙がこぼれ落ちる。

雫「おばさん……梨花は自殺なんてしてないから」

桃子「え？」

雫「私がやるから。ううん。私たちで、やるから……」

桃子「……雫ちゃん？」

雫「梨花の無念は、必ず晴らす」

雫、大事そうにこけしを握りしめる。

雫「アイツだけは、絶対に許さない……」

顔をあげる。

雫の殺意に満ちた目が、鏡に映る。

雫「地獄の底に突き落とすとしてやる」

○桜園女子高等学校・外観

日差しが強く、木の影が濃い。

蝉が鳴いている。

校門の壁に、『桜園女子高等学校』の文字。

○同・廊下

西島春人（32）、出席簿を手に歩いている。

○同・教室

西島がドアを開けて入ってくる。

西島「ホームルームは始めるぞ……!!？」

教室を見渡し、息をのむ。

女生徒全員が、おかつぱ頭で席についている。

両手を膝におき、西島をじっと見ている。

教卓の前の席に、おかつぱ頭の雫の姿。

雫「起立！」

女生徒全員が、一糸乱れず同時に立ち上がる。

西島「！？」

女生徒たちの鬼気迫る剣幕に、圧倒される西島。

雫「礼！ 着席！」

女生徒全員が、一糸乱れず同時に着席する。

西島「……」

西島、驚きのあまり固まっている。

西島「……あつ……日直は、仲峰だったか？」

出席簿をペラペラめくる西島。

雫「……」

雫、無言で西島をじっと見ている。

西島「……なんだよ」

女生徒A「先生ー、早く出席とってください」

西島「あつ、ああ……」

教卓の上で出席簿を確認する西島。

西島「相沢恵」

誰も何も反応しない。

西島「相沢恵！」

誰も何も反応しない。

西島、女生徒Bに近づく。

西島「相沢！ 黙ってないで返事しろ！」

女生徒B「先生、私、相沢じゃありません」

西島「はあ？ お前、何言ってるんだよ……」

女生徒B、西島をじっと睨む。

西島、目をそらして、

西島「(舌打ち)もう良い！　じゃあ、次、井川加奈子」

誰も何も反応しない。

西島、女生徒Cの前に立つ。

西島「お前も、返事しないつもりか？」

女生徒C「だって私、そんな名前じゃないので」

西島、出席簿を床に叩きつけ、女生徒Cの机を蹴飛ばす。

西島「じゃあお前たちは、いったい誰なんだ！？」

女生徒全員「葉山梨花」

西島の顔がみるみる青ざめていく。

西島「何の冗談だ……仲峰！　仲峰雫！？　これは、お前たち演劇

部の仕業か！？」

両手で激しく雫の机を叩く。

雫、無言で黒板を指さす。

赤いチョークで書かれた『チェリードール　第三幕』の禍々しい文字。

西島「チェリードール……第三幕」

雫「はじめっ！」

バンッ！

女生徒全員が、机から原稿用紙を取り、一斉に立ち上がる。

西島「はっ……えっ、なっ……」

西島、言い知れない恐怖感をおぼえ、後ずさりする。

女生徒D「こけしが高校教師と付き合ってから、ひと月が過ぎました」

女生徒E「こけしは、先生の秘密を知りました」

西島の額から流れる汗が、左手薬指に落ちる。

女生徒F「先生には婚約者がいたのです」

女生徒G「こけしは言いました」

女生徒H「『先生別れてください』」

女生徒I「しかし、先生は首を横にふって、こう言いました」

女生徒全員が、西島を見る。

西島「……」

雫「先生のセリフですよ」

西島「これは、いったい、なっ、なっ、何のまねだ!？」

西島、雫の胸ぐらをつかむ。

呼吸の荒い西島。

西島「こんなことが許されると思うなよ! お前たち全員親を呼び

だしてな、二度とこの高校に通えなくしてやるからな!」

雫、無言で制服を脱ぎ始める。

雫から離れる西島。

西島「なんだよ……なんなんだよ、お前ら……何考えてんだよ!？」
雫「忘れたようなので私が言いますね。『別れるなら、お前の写真をばらまくぞ』」

教室に蝉の鳴き声が響きわたる。

西島の全身から汗がふきでる。

下着姿の雫。

原稿用紙を手にした女生徒全員が、一糸乱れず行進する。

女生徒J「その写真は、体育館倉庫で撮られたものでした」

女生徒J、携帯電話を取りだして、雫をカシヤツ。

西島「やめろ……」

女生徒K「その写真には、裸のこけしが写っていました」

女生徒K、携帯電話を取りだして、雫をカシヤツ。

女生徒L「みずみずしい肌に、膨らみはじめた乳房。おかつぱ頭の
処女の裸体」

女生徒L、携帯電話を取りだして、雫をカシヤツ。

雫、下着を脱いで、真っ裸になる。

西島「やめろ……」

女生徒M「先生の皮をかぶった醜い悪魔は、そんな少女を欲望のままに、汚したのです」

女生徒全員が、雫を丸く囲み、雫を携帯電話でカシヤツ!

西島「やめろー!」

西島、雫の頬を平手打ちする。

顔色一つ変えずに原稿用紙のページをめくる雫。

雫「やめませんよ。復讐の幕が下りるまでは……」

雫を中心とした女生徒全員で、西島を丸く囲んでいる。

女生徒N「少女は、悪魔を理科室に呼びだして言いました」

西島、ポケットからタバコと100円ライターを取り出す。

西島「黙れ……」

女生徒O「『別れてくれないと、先生の婚約者に全て話します』」

西島、カチャカチャとタバコに火をつけようとするが、

一向に火がつかないライター。

西島「黙れよ……」

女生徒P「激昂した悪魔は、少女につかみかかり」

女生徒Q「もみ合いになって」

西島「黙れって言うてんだよ！」

西島、100円ライターを壁に投げつける。

その衝撃でライターが爆発し、破片が飛び散る。

破片が生徒の何人かの体にかすり、血が流れるが、

誰一人として表情を変えない。

女生徒R「少女を窓から突き落としたのです」

女生徒全員が、一番後ろの席を見る。

つられて見る西島。

机の上に、おかつぱ頭の少女が描かれた、木彫りのこけし。

こけしに描かれた少女が、一瞬、まばたきする。

西島「ひい！」

後ろに跳ね上がる。

雫「ねえ、先生？ どうして少女は、悪魔に殺されたのですか？」

西島「違う……」

雫「少女は殺されたのに、自殺したなんて。なんでそんなおとぎ話

になってしまったのですか？」

西島「違う！ 俺じゃない！ おれは殺してない。頼む、信じてく

れ……」

雫、殺意をこめた目で西島を見る。

雫「お前が、葉山梨花の人生の幕を下ろしたんだろ！」

西島「わー！」

半狂乱で廊下に飛びだす西島。

立ち止まり、目を見開く。

廊下に木彫りのこけしが一列に並び、頭から血を流している。

西島「ぐっ！」

両手で口を押さえ、教室のなかに後ずさり。

女生徒全員が拍手で西島を迎え入れる。

西島、そのまま後ずさりし、開いた窓から落ちる。

ドサッ！

雫「……」

雫、下着をつけ、制服を着る。

窓に近づく雫。

雫、窓から地面を見下ろす。

頭から血を流して倒れている西島の姿が見える。

雫「えっ……！？」

目を大きく見開く。

西島の横に、こけしのストラップがついた折りたたみ式の

携帯電話が、転がっている。

雫の横に立つ女生徒A。

女生徒A「ねえ、あのストラップって、梨花と同じやつだよね……」

雫「……」

女生徒A「雫……」

雫「……」

女生徒A「梨花って……本当に、先生に殺されたの？」

蝉の鳴き声がいつそう大きく鳴る。

原稿用紙が風で舞い上がる。

○ブラック画面

テロップ『チェリードール 第一幕』

○桜園女子高等学校・廊下（雫の回想）

チャイム音。

おかつぱ頭の葉山梨花（17）、両手でバッグを抱えて走っている。

梨花「あっ！」

満面の笑みを浮かべる梨花。

前方に、大きなダンボールを抱えて歩く西島の姿を見つめる。
ダンボールから出席簿が落ちる。

梨花「先生！ 落ちましたよ」

出席簿を拾う梨花。

西島「おっ、葉山。ありがどうな」

梨花「手伝いましょうか？」

西島「大丈夫だ、これくらい」

梨花、周りをキョロキョロと見渡す。

誰もいないのを確認して、

梨花「はい」

弁当箱を西島が持つダンボールの上に置く。

二人の後方に現れるロングヘアの雫。

雫「あっ、梨花。こんな所に」

梨花「先生の好きなハンバーグ入ってるから」

雫、とっさに柱の陰に隠れる。

雫「……」

聞き耳をたてる雫。

西島「今度は生焼けじゃないだろうな」

梨花「大丈夫。何十回と練習したんだよ」

西島「さんきゅ」

去っていく西島。

梨花、西島の背中をみつめる。

目をキラキラとさせ、恋する乙女の雰囲気である。

雫の声「梨花！」

雫、後ろから梨花を抱きしめる。

梨花「雫！？ もう、心臓止まるかと思った」

雫「梨花……さっきの」

梨花「ねえ、雫。秋の演劇コンクールの台本を書いたんだけど」

雫「えっ、見たい！」

梨花、バッグから原稿用紙の束を取り出す。

さっと奪う雫。

表紙に『チェリドール』のタイトル。

雫「チェリドール？ どんな物語？」

梨花「えーっと、こけしが人間の男に恋をする……みたいな」

雫「は？ なにそれ？ コメディ？」

梨花「ちがうよ。純愛ラブストーリーだから」

雫「ふーん、まっ、主人公は梨花で決まりだよね」

梨花「えっ、なんで？」

雫「だって梨花って、こけしみたいじゃん」

梨花「そんなの、髪型だけだよ」

雫「それに、純愛といえは、でしょ？」

梨花「うー……」

頬を赤らめる梨花。

梨花「雫だけには言うけど、今ね。初恋の人と付き合っているの」

雫「初恋って……まさか、先生と！？」

梨花「しっ！ しっ、だよ。声が大きい」

雫「あっ、ごめん」

梨花、折りたたみ式の携帯電話を取り出す。

こけしのストラップがついている。

梨花「先生とおそろいなんだ」

雫、心配そうに梨花を見る。

雫「初恋は実らないって言うよ」

梨花「それでも良いの。だって、明日には日常がどうなっちゃうかわからないんだから」

と、窓の外を見る。

満開の桜の木が見える。

梨花「初恋だけど、もしかしたら最後の恋になるかもしれないじゃん」

雫「最後の恋って……まさか結婚するつもりなの？ 先生と」

梨花「そういうことじゃなくてさー」

雫「まっ、もし先生が梨花を泣かしたら、演劇部総出で、袋叩きにしてやるもんね」

梨花「もう、雫のバカ。お願いだからそんなことやめてよね。後悔はないんだから」

雫「……そっか」

雫、原稿用紙のページをめくる。

雫「うわっ。大人になって読み返したら悶絶しそう」

梨花「それでも良いの！」

笑い合う二人。

外では、桜の花びらが舞っている。

〈了〉